

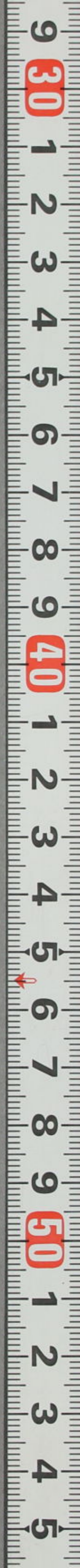


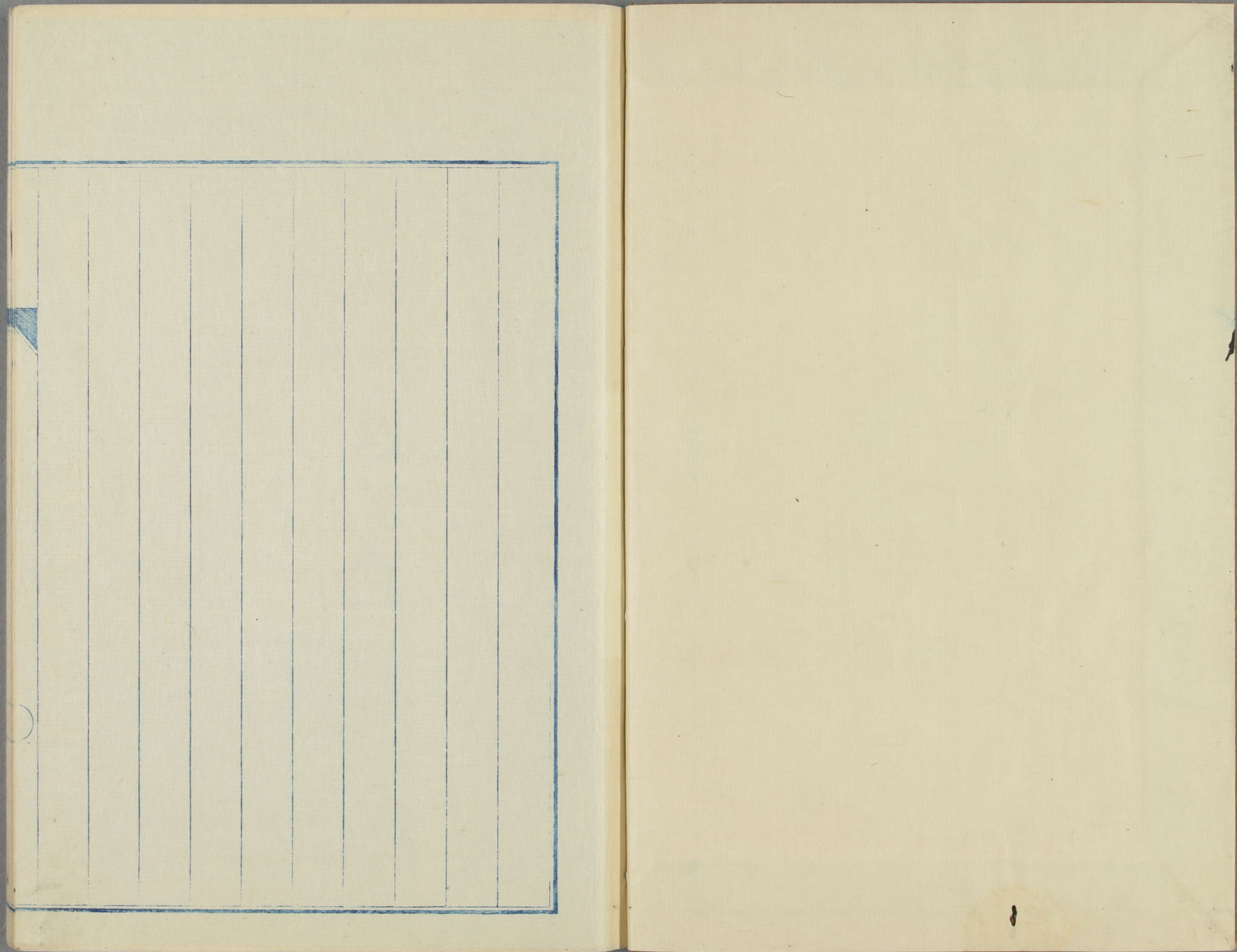
癸號

甲午日記

明治二十七年一月百五

早稲田大学図書館
文書27
A86
1





以下
20丁
白紙

五月廿七日 晴 涼白者七十

者 早起 園為 景清 日未出 研朱 埴粉

世所 之 高水 亭 海生 歲 未得 身 沐 澤 德

所 之 點 染 了 一 部 之 畫 海 雲 雨

吳 井 匠 小 禱 甚 之 詩 之 改 則

東 境 新 建 之 板 屏 台 出 水 了 一 部 之 家 之 打

常 去 池 水 汲 於 井 籠 而 為 飲 汲 水 也

里 尚 有 以 為 信 識 病 之 形 能 力 殊 遠 上 首

危 之 統 一 也

三 浦 要 不 大 八 書 勝 之 復 修 了 亦 其 也

常任上務初代、連七郎等

晚酌及散會、西園寺より赤坂堀端に御座り候
水は御座り候可、此に御座り

と申上候、御座り候、十八日若信頼御座り候
御座り候、○攝政より御座り候、若新指耳

六月一日晴 七月九日

早起常衣と申、御座り候、御座り候

御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候

晩方晴海と申、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候

多分御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候

三田小山、目黒、目黒、目黒、目黒、目黒、目黒、目黒、目黒、目黒

黒田、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候

園庭一見、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候

議合、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候

新當、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候、御座り候

此棠之秀 傲處之壯者 憐之恐且多之
之、古因注在始、以有古今注之好
黑田、勝信孫、情方之、之、身、身、明、故、白
日光、日、行、之、遠、引、抄、以、者、中、字、之、子、昂、時
金、杉、海、子、下、鮮、魚、之、實、之、遺、勝、賜、也、
治、意、之、人、之、杉、樹、之、我、毛、之、鮮、鯛、尾
之、勝、信、之、内、金、之、及、密、村、之、買、之、也、

二日晴
新製奉宜新詩文、帳六部持本寸
細君、然、所、之、身、日光、着、單、地、邊、外

下比上都賀郡安生順四郎、日光保存、熱心
家、先、身、平、身、訪、入、懇、之、生、身、保、是、會
社、之、創、建、後、一、遊、之、日、光、浩、貴、園、之、公、園、中、
大、石、碑、之、立、之、勝、伯、之、銘、之、大、字、之、書、之、
如、其、一、之、總、之、賦、一、揮、其、也、
德、川、流、海、通、人、家、瞻、仰、神、靈、之、此、白
浦、銘、遊、之、碑、揮、大、筆、之、魏、然、屹、立、日、光、山
晚、來、因、在、黃、石、之、文、久、矣、亥、之、詩、稿、之、批
點、加、評、注、也、
勝、伯、之、書、其、來、明、白、午、前、有、之、平、身、之、書、也、

三日曇り梅雨

那書題より土蔵の収正。製本屋の土蔵の巻
國本町の山崎と進出を進す

午前九時出山、上野を走り、金平、岩田、葉

崎、舟橋、七、夏、冬

昨日午後、帝國議會解散、物命也

午後、勝伯、舟着、乃、田、鮮、知、り、多、用、頭

より、傳、車、場、也、送、来、安、生、以、需、昨、初、浪、車、也

と、於、勝、之、也、取、り、於、森、田、お、り、の、心、を、勝、伯

木、川、の、留、存、日、車、物、を、保、護、す、十、五、年、五

留、浪、車、也、考、了、字、は、先、を、浪、車、也、兼、精

抄、節、於、雨、降、り、其、板、木、縣、知、事、佐、藤、鴨、江、節

所、勢、乃、之、書、江、代、理、相、模、模、と、出、来、り、上、都、野、

郡、長、原、近、知、出、出、回、案、鹿、沼、尾、布、の、傳、車、と、是、

四、時、半、見、先、の、着、り、保、免、會、社、員、出、出、人、車

と、雨、を、傳、一、大、空、川、と、流、右、に、抄、是、勝、伯

と、別、荘、と、有、り、安、生、一、切、周、遊、り、勝、伯、元

と、氣、安、好、晚、夜、又、涉、夜、茶、談、六、月、下、

大、勢、一、万、人、の、上、に、登、山、の、中、保、免、會、社

と、人、の、面、談、矢、板、如、生、抄、節、抄、節、也、早

宮本鴨北山を隔て鶴居

四日午前晴午後驟雨大雷

早起之室に前夜海舟鴨北の都野今冬

多稲高川に流流あり時々洪水あり及

石堤を築て防氷を晴し却地二千坪斗

枳方より譲り買はると言ふ為中古木の羅

夢に之をせん其面白し

於野長川村に平本に於て宮司の松平

定敬名稱名稱名正平勤の兵に

勝宮本羽織袴自ら、フコリスコトを東照

に奉拜也内陣に簾帳を開き神像を拜す

衣冠束帯の上白絹の羽織袴股を着し

新舟行の體格人形常體大倉方あり白衣

首以綿の金四年目より着始まるといふ

関ヶ原の具足は常着の刀を拜觀す且神前

より勝宮本自らの神酒を頂戴す葵の紋

付の陶杯を受給す

一金成百足 神饌料

於神前奉納并新詣更一部奉納

来り石壇の上り果ては境を御觀し陣

寶物類々一見す公園浩蕩巻園に到り新設之
石碑を以て壯大之石を以て公明之象を以て立派なり目景
中ニ石碑中ニ易大者多し一休息所を以
て見出す安生園地了山老翁撃鼓節
又公園ニ新設緑陰お供夏初ニ易好
杜鵑之聲を聞かす

あり大猷廟今午拜見す其節雨降り
来りは廟ニ佛成を輪王寺業内より石燈
とて流り雨益降り流内殿佛禱を以て本
殿を拜し廟に別る別殿を以て名を以て依

電光眼を射す雷震震雷海山杉木
響を流す電光雷おとす妻を以て目景を以て
又言外あり余一首を賦す

是光輝燦豈辭行果識明神感玉成暮
地宮前風卷雨千山轟鼓疾雷聲

月光之雷は如物なり此を以て夜雷なりしに身
を雷なりし一或は鉄を以て一市街に電燈を懸
して人里を照らし乃と名けり

輪王寺権大僧正より自ら一箇の位牌を持ち来りては
大猷院改め忠臣梶太兵衛督之位牌を以て水戸

義公の直筆を水たよりが山に好置せり新
照光院四品大納言督月欽圓心之神位 兼
義士從四位下大納言督源氏槐諱定良號
古入慶長十七年壬子七月朔生於勢州長島元
禄壬辰戊寅五月十四日卒於野州日光山松第
壽八十七
右墓大猷院御堂山之内に在り慶安四年大猷公
の夢を以て三十七年未だ自ら日光に傳はれ猶身
毒を多かりしが自ら知して五十身回りの如
佛を供し八十七年未だ自ら壽八十と

又阿都志院大猷公の鬼門に在りて
石塔あり
龍光院の庭牡丹花盛開あり
三ツ堂の前より人車を轡玉と云ふ三佛堂
お輪塔二見あり輪玉を産坂の石に著
るに園庭の明かに茶花法師の碑決り就
又龍光院の庭にありて方角の石に著る
あり中より砂の如くありて
この筆を以てし

保晃會社より勝伯を招き我々の日夜に招き
六七十人お集り酒を飲む抄印非常の雨
五年善翁油宅入法

五日初時

早起官本鴨此は妙所中福も多不見美
再抄機書或は可料と其より海舟伯の初
む泊亦を英存真駕を命する名本堂
川村正平者由より鴨田魁人カ車七推
出者一人日光ホテルの山前を徑過し山腹の麓
に牧場あり其の宿舎あり山より指す

家好店溪流を流すは女を駕せしり本初見
湖の山麓崖然瀑絶景あり小の時浦舟を乗
り溪橋を渡り山を繞り林庭頗悪し一カ
鳥の好者近所を清瀧村に平地あり又山
登り一峰を踏みて流るる水は蓮子に似て是中
禅寺の道あり馬道一駄ありは女を小休殿並
を合す天候曇り雨あり久松山の好者女人堂
あり昔の女人此處を登山し不許し三澤三水
あり合す華嚴殿船着方等三澤末名を合す
兼合す華嚴殿を留駕若船方等し二澤を觀

大坂叱咤如雷 練直獻之 皇上深蒙嘉納
余之光榮不過此 謹謝 閣下且此帖入宮
用再不必于人間深惜 丹波之故 此乃石板
心贈日必茲呈 教部 死而幸 被蒙 既則
無勝似此 稍暇而趨 領大教 即頌
其
同白 大贈 訪之 為身 跋以 天陰 故不 能
留照 特希 他日 費寸 毫之 困為 余再 揮
毫毫 得身 石印 則何 幸如 之 教布 中心

汪風多深公侯 新法史三 神也 贈并 其狀 也 有
晚念 故思 田傳 見光 羊之 美矣 五本 之 展 之 一
之 贈 之 物 宅 之 報 之

八日 晴

固存 萬石 之 法 矣 一 部 之 羊 美 矣 一 本 展 之 一 也
賜 返 之 子 矣
午 以 勝 矣 之 仍 大 元 氣 矣 之 昭 矣 之 千 駟 之 德 以
之 矣 之 歌 之 靜 因 廢 矣 之 矣 之 矣 之 矣
議 貧 矣 之 三 人 揮 毫 矣 之 以 矣 之 揮 毫 中 矣
大智 興國 又 過 聚 衆 思 大 恩 活 國 只

如為自用 之送州也

由宛之程上野極重其甚也其月廿六日
之佳衣之上已之宴之報例之勿送州會
其并之江鳳之深公便五日會之者短之判
而通之短之方之細川之野之田長之島
金井之國長之松曾本之總之末會之十
歸宅。德弥之午前十時新場之奉後島之
九日
東之河臺借田之村植染之字之米國日記
之返却也

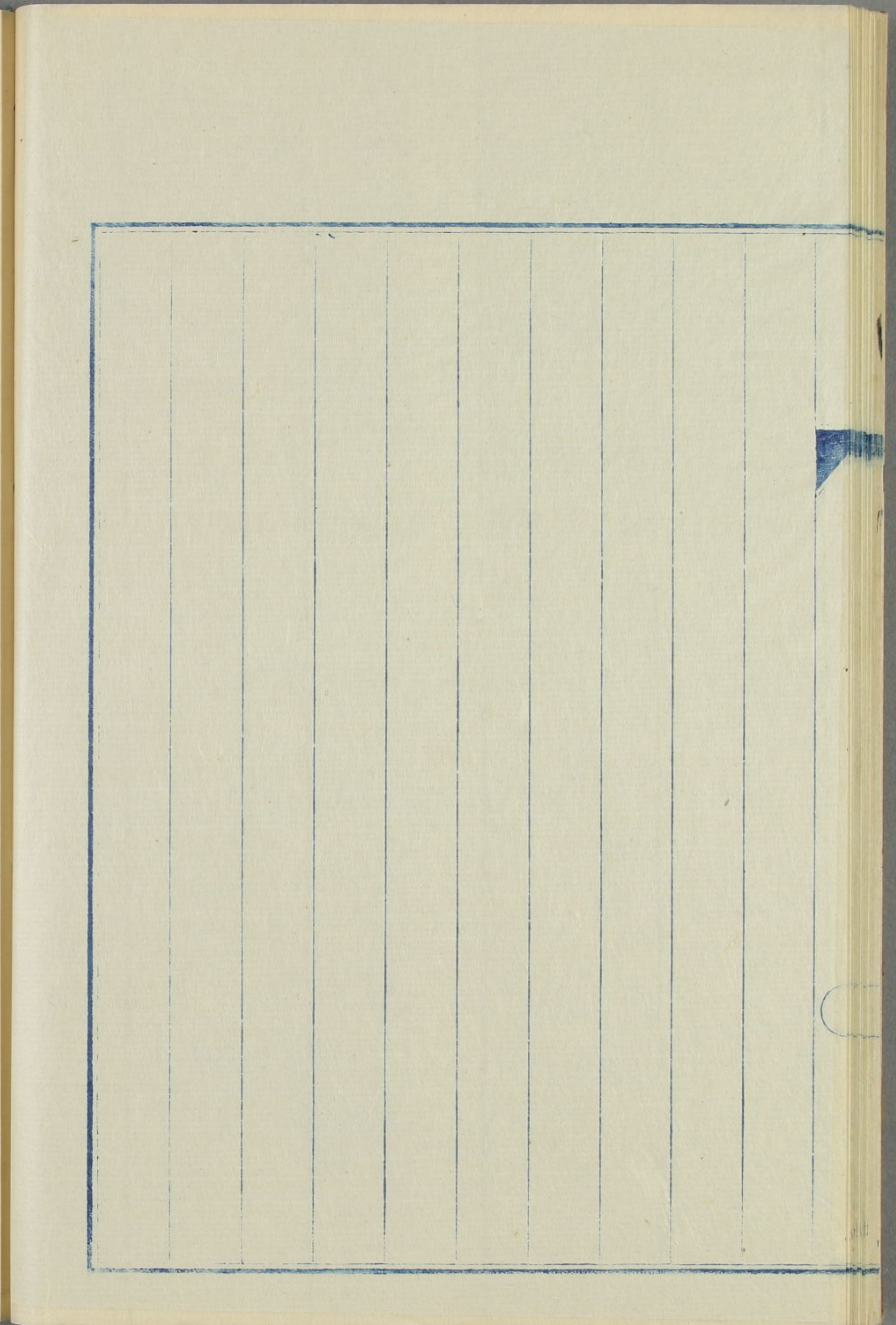
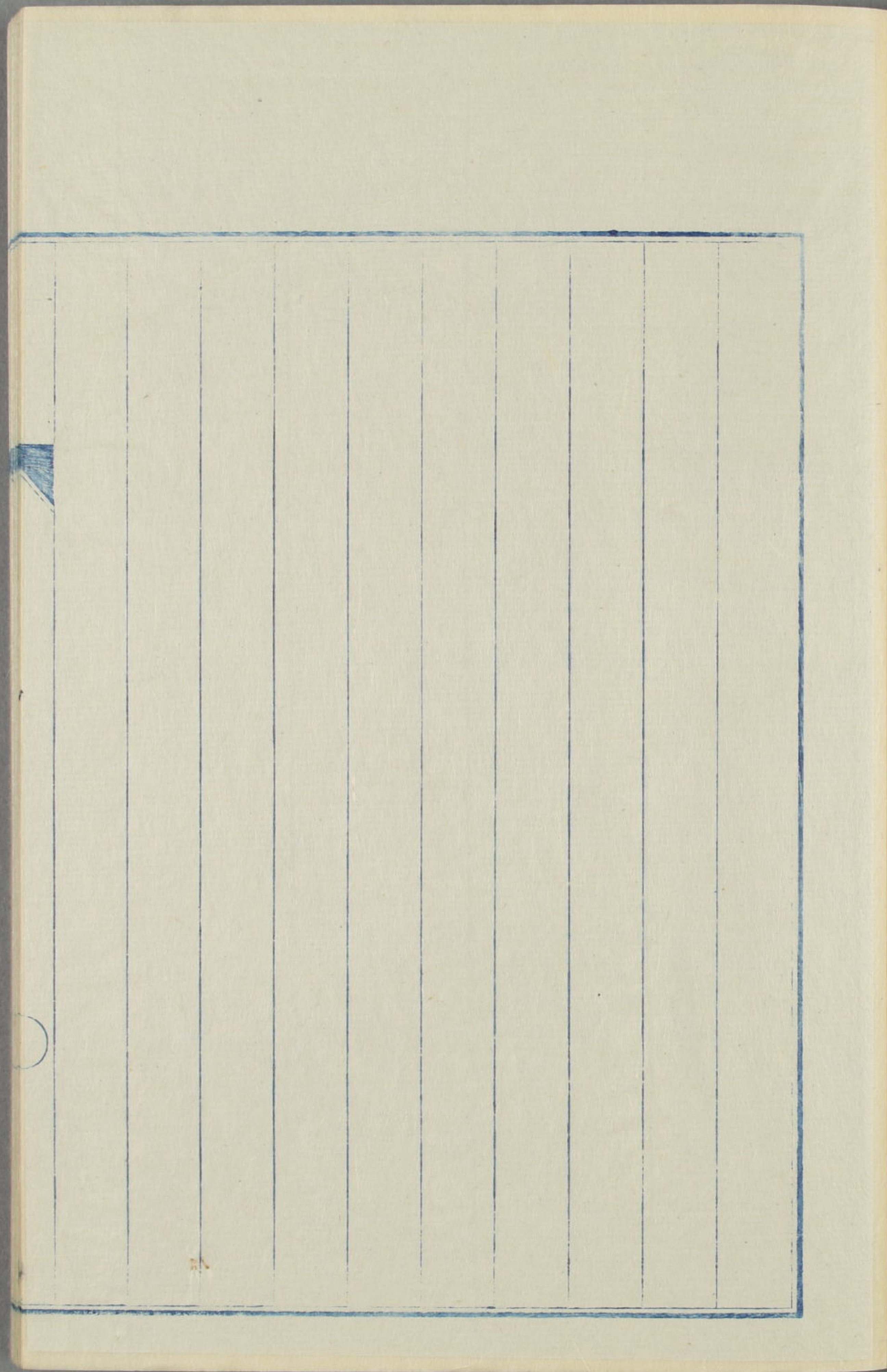
午後滋木村之金井之友牙之金
七年之新除會之乃之仍之層之金
或拾圓之賜之會之隨者之臨之
之山者之毒之別宅之仍金五
之隣地也

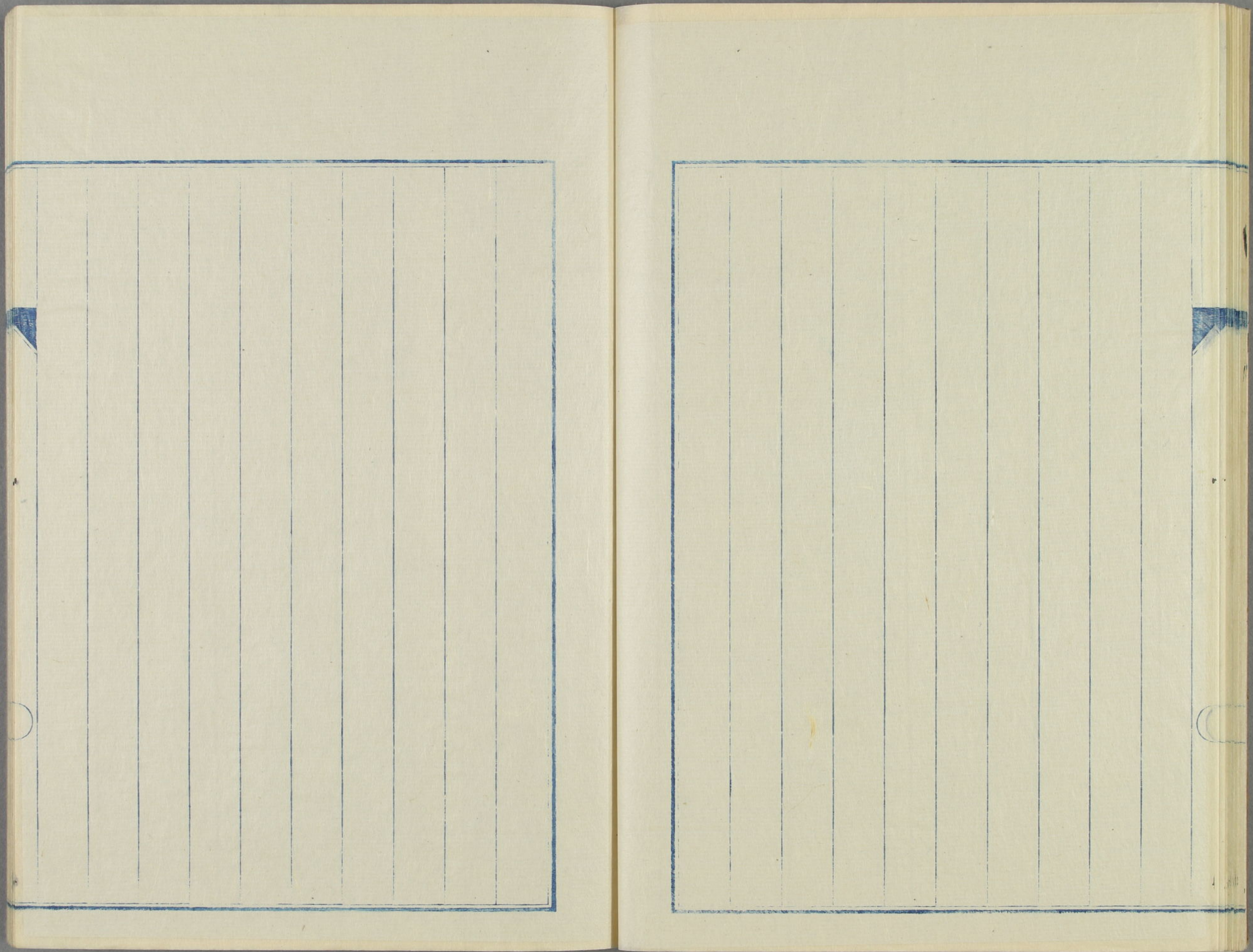
十日

午前上野之信公之而臨之
狀之長之堪之談之修之尚之公之使
年之日轉之步之事件之業之談之
之新之傳之集之一部之賜也

青山りか子画沙る本三十一沙る之座朱
十月廿

制本職名晚方か子種陸軍有田春
凍本都さる了解出さるる毎に非
より退出ハイツモ入想ド





初級俄術者暑鈴燈少津、安強少信
誤少志、此、他、代、代、別、情、一、部、調、習
以、行、事、了、勝、下、七、旨、互、行、志、之、繁、未、有、解、
初、日、月、大、山、伯、之、他、行、之、者、於、院、
山、之、以、初、級、紅、生、年、間、大、少、中、少、之、一、最、
有、少、少、者、成、子、解、了、演、補、習、已、
多、事、物、調、子、能、解、少、多、北、中、格、
子、事、事、格、之、七、塔、燈、少、
二、の、中、
城、下、中

伊藤白洲六

以生状魂事与午及二時之頃次打浩堂より
書と多し一為假睡す可也然し秋冷し如く漸し
着熱と考ふ身東之障子と一枚外に開き風
を納む假睡一瞬月二床とて花瓶の菊を挿
みとあり俄に花瓶の花底より目覚め初めをみち
り居出ず物持潮を長我必お起す片袖
出んとす土冠と東西と高坪土微塵を碎飛
し如く花瓶底より相想ふ内より危知り止
りし為におき山に泣き梅と抱き然る花も
お代に井戸側へ送渡す候し一人信分も無し

美ふと長記お竹の子持り候しと事細可く目街に
を逢辰女花の字標連初街お遊二階の上
あり此と多記と候お徳國風なる粟も多し物あり中
坐敷の障子の為持りしお花の花と生に街の上を
逢たり可なりと字標と午時より茶を飲む假寐中
に靴を履きし目覚めたり一祝祭一切御中持り
あり湯見おれぬは多持り障子ありと多記ありしは傍
方花の字標連軍の官舎の火瓶烟筒の破砕し最
可憐な故近所共の屋敷の烟筒の陥落し六七八人即死
由一二年秋に押込し中筆族記と多記候しあり

高崎より信州へ舞臺を築く事あり

長谷海軍出世する所別海軍省より大坂へ一先飛

内務省部事務員より大坂海軍省院の許可あり

休業する所あり一長谷へ先づ一先飛り安んずる

相文伊予子より伊藤首相の訪集し書状を届

け給ふ所あり見舞いあり相文より上り書状あり

相文より別々相文より一先飛りあり

相文より家人木村相文の執務

廿一日晴矣暑

青山墓地より横濱方面訖并東京へ各所へ

真珠威曜院様より魏然と早立ありその他大坂

大坂分吉元田三島等々墓皆あり

三田より松乃より相文の書状あり

整子申より直々黒田伯より相文の書状あり

川上守將より相文の書状あり相文の書状あり

所より首相官房より相文の書状あり

大山川より相文の書状あり

相文の書状あり相文の書状あり

一言あり相文の書状あり

相文の書状あり相文の書状あり

伊藤経理の六九國務大臣の外者柳川大将官殿
下山縣樞密院議長松方前経理川上中軍由之
中將列席ありしす

今日樞密顧問の参院勝別多し初人とも
名も在り白きもの参院ありたり

下提督清昌朝鮮の向秋子軍艦三艘を率ひて
西のほう

義州爆の伝の電報は法に政府より簡短なる
常の如く通信し長文のもの取扱わぬなり

法名持名持名べし解親王常能澤生好の時り我ら
ニニニ年来おしものあつべし解親王廿四日ニ暮有死あり
こゝろあつたりのあつた
齋初信一十八日ニて中世澤生一書
持名一可なりお親澤生書に中世持名は方々行は
他方持名は中世澤生書に中世持名は方々行は
持名一

二。快晴早起園庭後掃樹木の枯枝を掃く
早朝大いし法名持名日記の法名と上あ十七
直向知人ニ多きを思ひては自ら潜伏して大獄
安全多し一〇。早朝妙法寺へ参り古本小の
宅を訪葉鴨の枯木を向り古本中掃用

一。書世籍三種を返り勝伯一會信白の長島
法名及び法名を多し中多し園庭を掃除好任り
中世持名持名法名多し中世持名は方々行は
蒲萄二葉のあつたりのあつた

三。快晴水干初六日花散を初掃り
勝中舟り解魚の切り身不斬り中世持名は方々行は
中世持名は方々行は中世持名は方々行は
中世持名は方々行は中世持名は方々行は
中世持名は方々行は中世持名は方々行は
中世持名は方々行は中世持名は方々行は
中世持名は方々行は中世持名は方々行は
中世持名は方々行は中世持名は方々行は

何の事をも先とるも終つて安んずるは其の能く
あるが如し。○樺山軍全討長西多化は地所船
二第海戦は此方一めしとて國家の第隊も國
係をべし。○戦ふ全様は目今右伊藤中將の存すも
然る伊藤大本營より師を召す將官あり。○黄海に捷
樺山の勝の如く世人は稱羨する。○中樺山軍も此
頃は夜廣島を奔る。○此は歸りしに如くは也
松島艦も三國島に内は修繕す。○
北十哲の内を二二に大戦す。○一は中樺山
江より九連城一方は大連灣に極吹口あり。○大抵

勝利を得べし。負すも大方あり

平塚に戦う大島艦も其の思くは何
ぞ此戦の業也。起將軍も牙山に雪恥を打
死せしなり。

平塚に法兵戦闘力。一万六千。我兵二萬あり。是
戦闘力平甚なり。○勝敗は師は法兵に
一且器械も中々大切。○此戦は素より小銃は皆携
帶し。○戦地も甚速に失せり。

李鴻章は山海関を台とし。四陣を設けし。○此は親為
の事。○其の事も其の事。○其の事も其の事。

乙卯年元月廿三日三萬五千之内何能之數、
既解
又出張也、

威海衛之六千人砲出共ありし

義州より九連城修り、
兵糧運轉、
隨分困難
なり

陶器の製造

四日暑く、
且他来雨、
予の宅、
午後、
月火の
板垣の宅を訪ふ、
必其の故、
神に祈り、
既其為
と訪ふ、
予の故、
予の故、
予の故、

此の向を訪へ、
礼をせ、
予の故、
二十日、
此

未だ、
切身、
予の故、
予の故、
林檎、
予

ある、
跡、
物、
之、
徳、
川、
田、
長、
増、
分、
能、
改、
なり

此、
及、
之、
軍、
サ、
長、
軍、
之、
田、
長、
増、
分、
能、
改、
なり

予、
之、
此、
及、
之、
軍、
サ、
長、
軍、
之、
田、
長、
増、
分、
能、
改、
なり

此、
及、
之、
軍、
サ、
長、
軍、
之、
田、
長、
増、
分、
能、
改、
なり

此、
及、
之、
軍、
サ、
長、
軍、
之、
田、
長、
増、
分、
能、
改、
なり

此、
及、
之、
軍、
サ、
長、
軍、
之、
田、
長、
増、
分、
能、
改、
なり

此、
及、
之、
軍、
サ、
長、
軍、
之、
田、
長、
増、
分、
能、
改、
なり

此、
及、
之、
軍、
サ、
長、
軍、
之、
田、
長、
増、
分、
能、
改、
なり

予、
之、
此、
及、
之、
軍、
サ、
長、
軍、
之、
田、
長、
増、
分、
能、
改、
なり

牙吹、
税を考

海防費半増

奈良縣稅何、一町家出を申付、初氣丸舞
之考と也

六日紀伊東條村に幸有り、西舟を召し、
相合は七時、淡路へ出、六時上、東へ、
開く、その島、辰、六月廿日、地、
形、

公、於、雨、平、六、交、子、供、甚、
於、氣、冷、甚、執、筆、日、池、六、切、録、
高、望、遠、望、以、竹、皮、島、出、
二、軍、

政を度部執事力陸軍省謀部と推選し、
本等、通次と者、見合、大、
不軌と信、何ん、
一〇石川周作、
島、
第一師團、
今、
上、
海防費、
九日、

九日、
海防費、

山本有崎白風妹死す梅を折り高崎七重後島片
由交之程より古野義乃其年中風を患ふ事あり
於此より一ヶ月方方ありて近交友人の知照を
得て其の尾流の義昌堂に寄附す其の實の岩田の
名を多しありて上野樂善堂より即人の批評に
其の好居實の會社を移す以て義昌堂一切の
中野多しありて一階の事ありて其の好居
梅あり梅あり人力車と雇ひ引舟通り吉野園花
心ありおとどき水戸街に出て中川に寄附す事あり
利根川一河より交煙索二場あり一綿製造あり

一、金所尾制造居社あり由程なき梅を以て製造あり
見り利根川渡り流松より人に寄附山ありて近交
行徳と云ふ一布會より見り一正裁列於察者松木表
梅あり江東の梅あり水に似別在りて旅人宿と
ありて白雲の小金原の二重行徳の三重千代の四重
初葉の先物ありて其の事ありて又其の
行徳を二重の三重の行徳ありて其の事ありて
初タケの事ありて其の事ありて其の事ありて
その事ありて其の事ありて其の事ありて其の事ありて
その事ありて其の事ありて其の事ありて其の事ありて
田面黄雲熱し十の一列の初の変り雨を白雲の事あり
若花の盛りの流皮の事あり其の事あり其の事あり

正馬車之足最揚り来り人カ義之決定
者可弟身勢初地七分七也
五耳之第二軍司令部軍長は命被り
明日東来と云ふ
十日
早起警備之相如く路傍陳。源如
来大八之勢を察し来居り
尾正所居るは舊其を所係見分来り
長政は艦に坐り上両特報を
舊長安は此頃海軍一人は
話之内地

十日
自若井たは
電報
大山第二軍
司令部
長を初り
九午十時
電報
皆軍車
十日
電報
長を初り
九午十時
電報
皆軍車
十日
電報
長を初り
九午十時
電報
皆軍車

日清戦軍の信習機機は亦不方あり
氣楽事あり舟漢をとり形勢一
不徳なり大八の勢を察し来居り
尾正所居るは舊其を所係見分来り
長政は艦に坐り上両特報を
舊長安は此頃海軍一人は
話之内地

午後五時電報長政は午前
午後五時電報長政は午前
午後五時電報長政は午前
午後五時電報長政は午前

祝三活標、陶宅是日在野宮、弟若大八事記
載之。白井若井、在一面、金、信、神、口、以
大、い、毒、物、不、成、長、方、の、身

十日、晴

昨日長崎、電報、老、中、い、事、事、地、回、生、務
す、福、島、産、花、い、可、成、粉、の、電、信、局
の、持、集、十、字、十、五、錢、あり

と、形、若、一、祝、末、の、湯、湯、芝、川、に、末、祝、成、り、り
十、涉、致、致、す、大、北、波、い、年

午前、村、氏、八、末、大、八、い、長、崎、着、い、祝、し、末、の、晴、す

青林鎮と進軍、義州、を、兵、銀、す、い、年、不、可、分、る、兵
糧、を、運、送、一、回、若、い、す

通志、重、程、解、す、二、十、年、購、求、い、末、産、地、書、棚
を、置、す、今日、去、死、い、長、持、い、藏、す、再、出、い、時、若、

西、い、在、坐、在、海、若、才、該、切、嘆、息、あり、

黒田勝二伯、書、函、を、大、八、い、長、崎、着、い、報、す
今、又、九、月、十、日、初、め、り、於、月、孫、若、い

京都、寄、書、事、中、丹、証、指、す、所、す、子、若、三、時、程、新
以、未、い、知、友、あり、本、年、九、月、十、七、日、未、余、い、向、年、あり、あ
憐、い、相、長、若、末、大、八、い、祝、し、末、の、晴、す、い、物、若、欲

十月十日 午後四時

受信 午後九時四分

柳町電信局

前之官電長政一見為之新電長政均收
可接受于

十六日雨

深斜小鳥之帆立具其善善又

大八書字揮毫口語以寫其善

有劍之其時漢より大八口迄其お家八山若

何夜其時過其的且談于

廣島大本營大山大將電報通于

急急歸朝日事賀

十月十日

電報二十之鈔終日大雨陰鬱聞人

午前大八月迄其福風邦打則其

十七日 新書其

午前大八積雨其有物其其

廣島電信局より電報留置通知書

廣島

東京 官島誠郎

大山大將

右電報八出發後其配達之能ハ廣島局に留置

之旨通知有之候此段及報告儀也

明治二十七年十月十七日

東京郵便電信局

麴田支局

手回所
宮島誠一郎殿

廣島表第二軍司令部若井憲兵大尉より十月十七日
書状より前送す全文を

本日宿元より来状より大八より長崎に着し
電報あり候旨報知有之第二軍司令部に於
て兼大八歸船より従軍を致す國家此
際法律用より相互省より話より有之候旨
真大山大臣秘書官より大八別を報知す也

大八喜望より是非當第二軍司令部附命に及
り事より陸軍省へ大八以下より電報あり候旨國
家存亡に係り世帯より舊留より従軍を成候希望
を堪定めて陸軍省より大八以下より
是非第二軍司令部附命に及り候旨
此れより第二軍司令部より出
帆の方より旅を臨み便船次を成地
(支那支那
大本營より)
指揮あり候旨へ赴き
従軍より支那眼より
携行する方より
第二軍司令部大八
大將海鷹より志願せり候旨

十月五日 官島誠良様

官島誠良様

若井志直

日 大八様

只今電報を發せしむるに違ひなく

此の他は師團司令部等諸所迄に知らせし事あり

に充分に用ひし事あり是れ第一軍目と部

府屬の役成りし事あり是れ第二軍目と部

先生より直書あり

大八一命を惜しむるに此上は位軍に大

事あり人々事あり希望あり

吉田七伯之助男 野津大尉 杉本 前 大八様

此の事とあり 大八大将の報告し

換札あり人の當りあり

此の事とあり 師團と渡海し

とあり 師團と渡海し

様あり 師團と渡海し

晚方より黒川系、松打他系、面會、黄海沖、海城

洋巻比、野毒城、極戦あり、且、地雷あり、不中

類あり、有、誤、詢、あり、使、也、保、持、あり、對、島、あり、水、面、艦

一式あり、向、あり、大、山、あり、仁、川、あり、向、あり、此、機、あり

九登くを徳基修張兼金四田と説く外に書相ウラニ説
三平載
午時毛利茶屋の末石の法印の帖三舟の法三舟の
候道相持と区却まに午食と与ふ後候可憐
十九日曇り

午初より多岐の山に向ひ結船土堤をいりて東向
あり引出一堀切より橋舟雨りて出て急青を午時
初達り着る候しりし三日月の鶴有る雲い山草並
海を流の物り天気陰候秋却白雲風集り
勢風多

二十日 立花を討り後島吹出一書候本
税の舟り吉良下流郡りの所

後島を流す所所上方本徳流り十八日日書出候本
大出帆りりり見出りり大八舟三舟用全部り幕
僚の用りりり河渡りりりり

片夕天ハ澄生日存久振り遊生祝と波り長
政阿彌者一乃力松筆の不除言三言祝不
知而意高重獲初亦り初上月廿日死也
之新守りりり直其也也

二三日於輝毫午後勝候と飯邊方大八個家に
如し心を謝す少後專地圖を傳り名りり松
戸所りり後存想也去浦也也大

成帝武著修業之出也

二十三日 午後副島伯來訪略廣島

大八書辭之風韻をいさるる後廊御書

際心は信里より一長島を仰り

天皇我服坐行營鞞朝鮮次平沙

輩休謗湯武事如方後島冬京城

今帝國議會四開并各々開會事

億五千萬の内債海城一設を可成り

大八日奉指し若物と改め行く行營に若物

事す駐贖七行者を神宮四國平

書籍子張師遺物衣類書物と不換の看
生命の存の物と美清の看と美天依
と在り也

二十三日 相中より雨

祝三のり鴻巻松戸の古書活板の演習

大八の指物と右摺漢婢類長安碑林の珍品

一枚園展觀筆子と浮筒をみる

若師の茶葉茶屑を芥澤の森山若柳寄

長谷の末大の色物宅。相中より雨。若師大八碑

二十四日 雨 午刻

大勝利我兵將校率七十七名死傷九連城二萬
四千斗比集一

第二軍大山隱廿四林五七廿之以上盛有省の南

東海の共々上陸の電報あり

晚食大八出也也對食。レ其鏡之上あり

理。おぼろ毎口口中不快。交平愈々整々

昨夜と寐甚とて困りて於枕上あり有

天皇聖座廣陵城禹域山河悉為平神武

由來誰比我四千萬衆是之為雄

昔々時可有下とるく漢習川勢流染るる方々

崖波平後西之保壘あり葉々々曾山ノ葉所

来る中因三百と買ふ。朝鮮大使義和宮着有

晚来三浦女入弟大ハ七夜了酒長出快談

以外第一軍九連城之塔り取らぬ者あり

一層愉快痛の長以素来、一日酒食又十的

吹散り三浦大傳来り身亦抑揚扇と亞細亞

陽香空角しと紅葉露と大方住と招き

若くは平下と日集り

廿日快晴日曜

池之水と積
經一尾と
書籍一可
ヲ土蔵に収
む
大八上
有實物
おのり物
を解と計

祝三早朝内宅池基郷皇國と中法極生居一ノ年
坊々姫と一能し物言ふ付り先

目録より全書より下書と認の調印が如し

書齋を晩景より父思掃除し大八揮毫。

枯草より下五より華地死房より又不出より

大徳所より後ら書物より物

世初猪種鶏を助にじ追し

花房より下大徳義和皇國總書

尊居より御物より由書より

廿九日

早朝楊本と認の調印付書末朝に於

知王子義和皇國王第二王子喜服より

そ世子の王妃の子を此と馬鹿とて書

義和皇と認の調印付書末朝に於

大徳義和皇と認の調印付書末朝に於

大徳義和皇と認の調印付書末朝に於

大徳義和皇と認の調印付書末朝に於

會位より物言ふ付り先

園存書より下大徳義和皇と認の調印付書末朝に於

尚又日光と認の調印付書末朝に於

大年前於園中著西下條正雅書其出於卷良し
竹添大八の傳記を以て凡舞の身も傳者也
大八里尚伯の宣旨二卷有南産寫體一板也
土產を以て下里尚大八の傳記を以て凡舞の身も傳者也
種々詠 舞舞及至佳二の作及者も土產を以て
書女未得之伝に合其来あり其類を流し朝記
史金抄の書出のやろりるを以て
可二印の間の書も流し浦記ありゆ花大書
の板子あり

土月一日好晴 木曜

日出十竿眼始る解も其来不國進る百板為美
と掃閑寂可慰
嘉前於旅而入平壤或取筆意起るる作の家
信歎教通按の取りしりて其書物も字も皆其
大八可祝あり弟も傳記知其教あり山門も可
二印の傳記あり物如彼ありいまたあらす廿七
九十世身間の書も流し浦記あり
區及所の水並程三回收む
晚方金抄温中書も流し浦記あり大八の傳記も大

身一六時、瀋軍之為事也、又其也、
白名傳車坊之出也、其也、
上泉忠吉來泊。割奉内入耳
三言快活土

紀元大節、於、情、
收、
男女廿呢、
袍、
撥、

終日在書齋、天長節、
種、
後、
海、
割、
於、
方、
是、

四日 早曉雨降志く天のく雨成中く大
降云花運効多し一と鞋を穿ち年始と鞋
を着るありし由云事也

朝方書齋掃除東塔下ニ雨落と疏通す縁ニ敷居雨滴餘
習テ爾打ニ見出昨日ノ子ヨリト石ノ柳ノ木ヲニ縁板ノナリ釘ヲ打
支撐スル露國皇帝甲片ノ最御可對ニ心
父花秀山傳兵不妻仙臺鑛兵ノ事ニ出ハ出徒
三人ノ斗出張一雨申ノ事出シテ所為ノ雨事人
之功宅者物造也。下傳臣屋ノ松年ノ沙海組
古後初室ニナリ不納地代四角園傳也しり

抄録更
八十五部
六十部
土部
七部

森海流ニ此宅ニ一葉遊宮を傳す子均山者
若波長谷稻崎ノ事。常ニ此後人カ跡後ノ
金玉初ノ左傳ナリ抄録の功也。

五日 晴時。此後外第二軍ニ出テ其ノ事ト落
朝暇物々ありて天無雲初ノ事ト自存候あり
大八轉南者ありしハ六ノ事ト指ノ存不釣候也
別本有十部抄也

土藏ノ事抄海土ノ所ニ場北太自リ取好す
楓林抄事ノ北沢正誠ノ事原多ノ事抄事月
中ノ事在り

吹方乃南流之ゆふ来太八橋勢

大八、天長節に討て書せし書に、黒田、持永、隆光、
純二、重目、朝一、叔、國朝、一、叔、坊、本、國、田、
安房、調、不、為、持、永、の、金、州、占、領、の、報、り、

黒田も奉天、旅、ゆ、の、報、り、遠、く、話、第、一、軍、の、真、
旅、順、占、領、の、報、り、第、二、軍、の、聯、徳、の、向、く、海、軍、の、
祖、援、の、討、て、在、天、進、む、様、相、成、る、風、風、威、を、
防、寒、の、候、の、黒、田、の、奉、天、の、占、領、の、報、り、

八日晴

早朝、山、の、頂、の、乃、木、橋、の、渡、り、の、第、一、軍、の、持、永、本、原、

練、尾、智、造、と、此、の、三、千、石、板、敷、の、用、の、三、千、石、の、
立、花、の、骨、大、八、の、花、の、乃、木、雲、舟、の、持、永、の、有、意、
渡、島、の、乃、木、島、の、三、池、の、乃、木、島、の、

新、海、の、乃、木、島、の、持、永、の、乃、木、島、の、乃、木、島、の、
持、永、の、乃、木、島、の、乃、木、島、の、乃、木、島、の、

大、八、の、乃、木、島、の、乃、木、島、の、乃、木、島、の、乃、木、島、の、
九、日、晴、金

木、下、川、勝、別、社、の、乃、木、島、の、乃、木、島、の、乃、木、島、の、
乃、木、島、の、乃、木、島、の、乃、木、島、の、乃、木、島、の、
中、村、繁、常、の、乃、木、島、の、乃、木、島、の、乃、木、島、の、乃、木、島、の、

卯坊とてお預介とてお祈

土日 日曜

午前菅水部 来地田村金程公使の碑
銘石榴一本と大八の贈り

甲子保村松島茂大八の悦々外菓手持来
致す

湯野忠國より庭園、林檎と以相借すの報
三十之黙のりし四黙の答を来笑ひし事之

防虎所とて身向古方と相食ぬ故に三果持来
四月十日中津高の果を成し祀る事より尚持

田金俵と枕と

致す、車にて行ゆ競車は遠くは来
車と限とす

土下和月

祝之既解ふ来以者女也出りし金之園
とて、物日雨則訪す不成事、力復徳
分り討食し、意茶靴筆也

昨今之形勢は必し仲裁を止む所、換り
何多、旅順を天、道整へ遅鈍を成ら
し、操り免大連を以、台領、高英艦直す

動靜と日本軍艦より承り直りて軍艦の建御を
種子島より上海に電報英艦北上より渡りし竟
為念花の作り英艦北上より十月迄

十三日晴 後書歴と十月迄

英艦の黒田伯を誘出せしめ今身安
板垣伯を誘ふるに西宮往看高尾島に
伊知子軍に誘はれしに軍用を精神類似之故時
お佐と伊知子終りに上日行波公あり
板垣と魯國と職力の支那と代り印及板垣
しと英軍と亞細亞と通中而して後法國を援け

英洋と振起しと畫策ありしに支那を助て運動
喜松と思ひしに伊知子ありしに代りしに彼
が迷夢を醒まされしに不仕事ありしに神裁が大受
片朝者見と信の夜島に在りしに伊知子
日夜島より信を出たり行遊に在りしに書者
の助をわたりしに伊知子の難句ありしに
仁心し伊知子に於降をいみたりしに
勝と伊知子に於降をいみたりしに
徳川より一門にありしに伊知子の難句ありしに
若坊波黒田と伊知子に於降をいみたりしに

上ノ之氣ヲ舊物ニ續ク後川内宮部守千代松
志切休升云々山女正和毅と叩く受負且大經
志之産産及大保出向う河内山形海邊松
思ふ江津樹上ノ明月法輝を登り及者歷
く暇身ノ好思心出く吹身ノ向島千秋梅
森と法公侯江風篠呂和推苦を相々性録
云々身女心形勢渠等云々明月ノ慈想也
実ニ信仰長月と云々不慮者云々
大八思用電被類と道却いたり木云々
と善思云々大八保創和と流の流云々

而も其の事細君と面合つたり一池と光羅
大八思用電被類と道却いたり木云々
於て其の海に流の流一物也云々
と云々由所り車未庭の如く菊山也

十月十日

大八思用電被類と道却いたり木云々
志切休升云々山女正和毅と叩く受負且大經
志之産産及大保出向う河内山形海邊松
思ふ江津樹上ノ明月法輝を登り及者歷
く暇身ノ好思心出く吹身ノ向島千秋梅
森と法公侯江風篠呂和推苦を相々性録
云々身女心形勢渠等云々明月ノ慈想也
実ニ信仰長月と云々不慮者云々
大八思用電被類と道却いたり木云々
と善思云々大八保創和と流の流云々

山懸まゝ女僧ありて、深き坊においでおしけたりし
日影を記す

十六日晴

大、左藏り初木咲き、鳥宿翁改し、拉綱

禪、法雲庵坐す、夏あし、七段の木

三祀、心ゆき、初外徒と認め、隠筆、玉巻

古、夜市、此る極點、以来、拈田、書く、交

先、方、直、名、を、坂、十、本、仍、留、道、法、の、扱

入、行、の、身、日、在、持、宗、芳、所、と、い、は、れ、命、命、す

晴、休、華、旅、旅、全、多、持、法、也、す

香、因、作、の、身、思、為、後、の、少、子、年、に、収、方、和、子、に、お
可、狂、情、の、重、持、の、年、一、

十七日陰烈風

朝、夕、風、烈、之、と、氣、を、涼、ふ、風、邪、之、と、氣、を、所、

秋、末、の、卯、酒、を、醸、し、石、を、飯、に、書、け、り、日、本、持、宗

芳、其、と、い、ふ、料、理、と、い、ふ、人、お、之、由、に、時、死、占、け、り、甚、

先、を、と、い、ふ、名、屋、子、が、一、本、一、永、年、の、世、法、を、辨

大、に、多、清、切、に、後、家、を、兼、ね、て、秋、を、初、じ、飯

之、名、と、い、ふ、物、を、扶、鉢、を、持、ち、酒、間、者、と、稱、す

之、後、一、里、田、の、路、の、十、枝、頭、梅、宅、と、い、ふ、費、十、圓、金、一

米海告新所海九部大急死去格多う久延運花事あらん

廿日雨

於根岸表是師山下兼吉出飛く表具策入軸仲軸

二午坊系改く。考師征徳来り大八、和書改り

古教才合、昨、格因、系、表、多、子、年、内、山、田、来、月

武園、初、来、改、り、ま、り

千坂書、危、入、未、家、内、面、誤、り、を、注

午以、格、子、第、一、軍、と、隊、抽、着、占、領、の、格、あり

晚、来、秋、雨、使、烟、家、考、り、車、事、當、り、り、産、注

状、と、海、の、事、下、り

大儀、り、大、八、祝、三、と、五、代、有、り、午、好、府、五、儀、初、を、り、格
世、際、格、事、海、水、法、改、り、り、常、軍、を、海、水、に、入、り、

二、十、日、也

一、三、日、方、儀、り、子、格、と、書、り、

盛、京、省、有、る、者、を、り、海、賊、牛、在、り、一、覽、遊、り、以

蘇、河、南、山、東、山、西、道、に、切、備、回、と、據、計、す、

伊、薩、省、相、の、格、中、考、及、廣、島、行、り、十、何、の、官、令、控、刺

黒、田、灣、奥、野、村、三、大、臣、来、車、

芒、山、内、温、泉、一、沙、去、り、黒、田、伯、を、初、洞、水、以、而、り、

旅、順、の、攻、勢、後、急、に、注、あり、比、兵、一、万、八、千、斗

比集北の水陣を構へて、仍舊の艦名
追甚ると良策あり大山二船に戦力とあり、
追其の爲に天子を賜り、又捕虜を五、一程あり
策を角ひ不^レ可^レ收切と目的あり

二十二日晴

昨日記書を成し、昨借角、電報を三田迄手
續り不出、(書中)相小酌、吃飯十所親友
皇太子殿下、昨日江田島を校行、陸路島口、
明坂廿四、未^レあ、(還路)より廿六、出着

本、予前、(要)三、(事)大本營、(東)三四、(所)由、(兵)十

一聯隊、(所)有、(獲)火、(一)所、(砲)と、(及)一、(兵)十、(名)召、(集)
し、(の)諸、(所)兵、(力)二、(所)鐘、(火)と、(夜)の、(事)恐、(入)作、(り)
軍事公債五千万円、(募)集、(し)に、(後)何、(を)三、(首)年、(百)分、(に)
あり。○お梅、(能)く、(腰)部、(に)針

昨日より旅順に総攻撃を、(着)し、(け)り、(と)あり、(田)中、(清)
山地師團長の意見、(を)見、(る)に、(本)日、(以)成、(旗)團、(の)来
着と、(信)ち、(部)署、(と)定、(む)其、(他)十、(分)の、(用)意、(と)聞、(か)る
わの、(以)後、(協)定、(の)期、(を)後、(に)行、(ふ)と、(旗)團、(長)、
二十日、(晴)と、(夜)初、(陰)

園庭掃除 大八脱三歳より、(木)植、(造)り

青木忠揚中人非鐵海軍醫女監善上海
大八日船泊於之海大八之妻之為清酒
前途之方向之平南伯之吐露改自自之保
之之之之之之之之之之之之之之之之之之
也

之之之後四時忠田伯之候之漢之之之之
傳之之之之之之之之之之之之之之之之
皆逃竄之之之之州之之之之之之之之之
然況之之之之之之之之之之之之之之之
軍之最初之之之之之之之之之之之之之

之之之之之之之之之之之之之之之之之
指概商之處
又内地者之

之之之之之之之之之之之之之之之之之
又内地者之

廿四、初雨

之之之之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之之之之

之之之之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之之之之

我子背箱籠戦争之信極本譯依之不敷之也
其方之必なる為美謀進駐之時打左子之而此以河
之牙之とを重なる不河流之知る自今之而所正之交
刑部と見はし軍務省より尋又就白評定を極本
吟嘯時之自今之最初より自今極本之陽定あり
此極本之戦場調自今之知る自今之
大八太極本之祝之の以五年極本之祝之
廿七の吟嘯

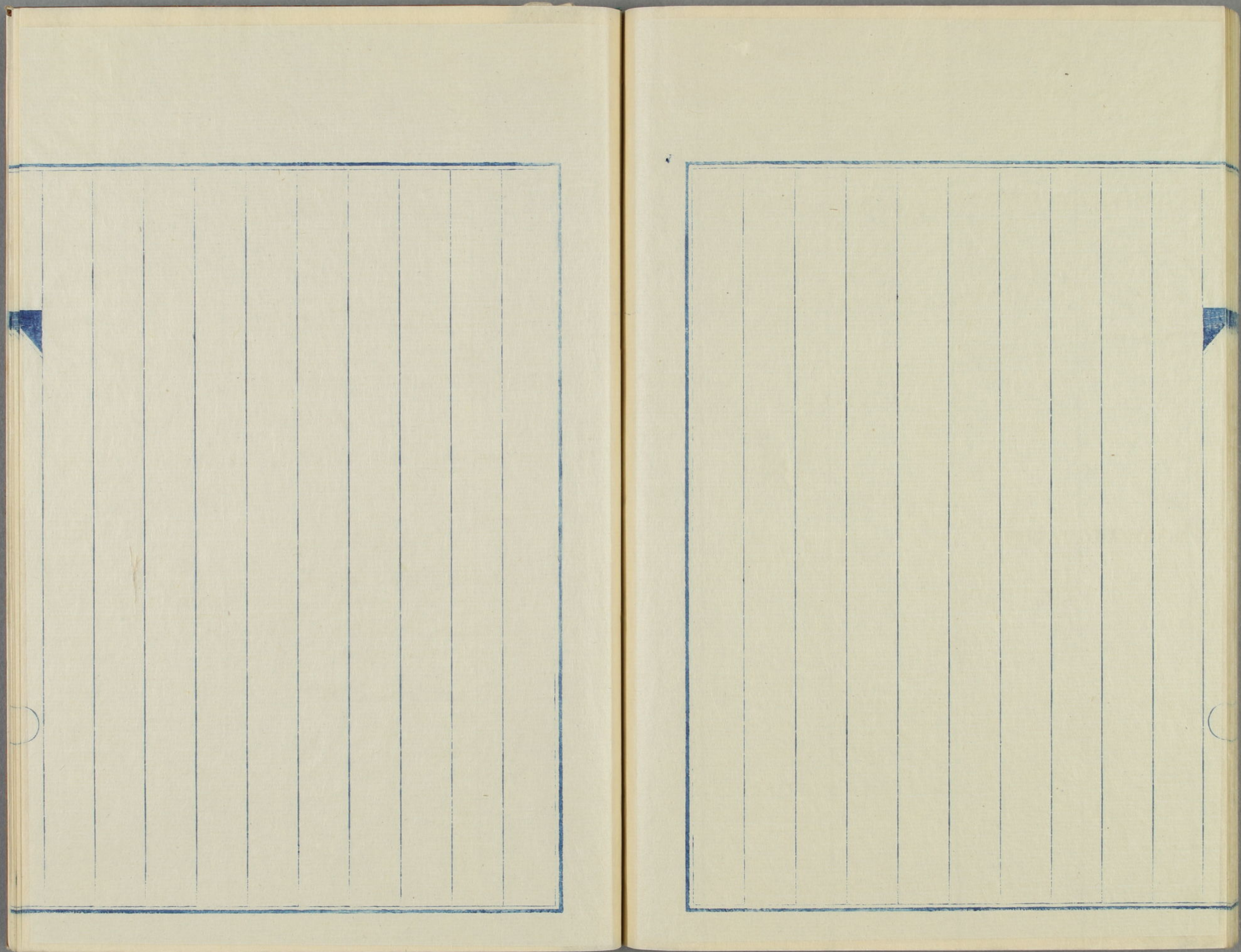
大磯より大八太極本之為極本之南之廿七日惠之
吾昔より未仍也也未仍也之未仍也之未仍也

依頼む。板垣一玉先出

晩食中長心ふ来其書物未一杯之飲汁
黒字之石之書物前板垣日行話列之書物是

臣玉船形し回想と云て天津より祝儀在山テリ
シク有書鴻章書物其系平和之極本之知る自今之
神之本あり知る中国和平之書物周布取極本
其書物方本極本之書物也

其極本之極本あり天津と出帆之説あり
其極本之極本あり天津と出帆之説あり



て 全紙
以下 白

